

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
 北海道開拓記念館内  
 電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第46回北海道博物館大会 7月19・20日、函館市で開催

第46回北海道博物館大会および平成19年度北海道博物館協会総会を、下記のとおり開催いたします。多くの会員の参加をお待ちしております。

会期 平成19年7月19日(木)～7月20日(金)  
 会場 函館国際ホテル  
 〒040-0064 函館市大手町5番10号  
 TEL (0138)23-5151  
 FAX (0138)23-0239

■大会テーマ 博物館の底力  
 -地域の魅力を引き出し、活かす博物館-

### ■大会日程

《一日目》 7月19日(木)

9時30分～10時00分 受付  
 10時00分～10時30分 開会式  
 1) 主催者挨拶 北海道博物館協会 会長  
 2) 歓迎の辞 函館市長  
 3) 祝辞 日本博物館協会 会長  
 北海道教育委員会 教育長  
 10時30分～11時15分 総会  
 11時15分～11時30分 表彰式  
 ○北海道立函館美術館ボランティアいちいの会  
 ○札幌芸術の森野外美術館  
 作品解説ボランティア  
 11時30分～12時00分 特別報告  
 ○テーマ 日本博物館協会の主要事業と最近の動向  
 報告者 財団法人 日本博物館協会  
 専務理事 久保庭信一 氏  
 12時00分～13時00分 昼食

12時30分～12時55分 ポスター解説  
 13時00分～13時15分 総会  
 13時20分～14時40分 特別講演  
 ○演題 「博物館の底力」  
 講師 特定非営利活動法人つなぐ  
 理事長 山本 育夫 氏  
 14時50分～17時00分 シンポジウム  
 ○テーマ 博物館の底力  
 -地域の魅力を引き出し、活かす博物館-  
 ○司会者 倶知安町小川原脩記念美術館  
 館長 矢吹 俊男 氏  
 ○コメンテーター 特定非営利活動法人つなぐ  
 理事長 山本 育夫 氏  
 ○パネリスト1 北海道教育大学教育学部函館校  
 准教授 根本 直樹 氏  
 ○パネリスト2 特定非営利活動法人はこだて街  
 なかプロジェクト  
 理事長 山内 一男 氏  
 ○パネリスト3 松前町館浜小学校  
 教頭 住吉 聡 氏  
 17時00分～17時10分 閉会式

《二日目》 7月20日(金)

8時50分 集合(函館国際ホテル前)  
 9時00分～11時45分 見学会  
 ○ウォーターフロント  
 ○北方民族資料館  
 ○旧函館区公会堂  
 ○市立函館博物館(本館)  
 11時45分～11時50分 閉会式  
 11時50分 解散  
 ※見学会は徒歩による移動となります。歩きやすい服装での参加をお願いいたします。  
 以上の日程で行いますので、お申し込みされていない方についても、ぜひご参加下さい。

## 第46回北海道博物館大会開催地 函館市

函館さ、ようこそ 人口約30万人を数える自然豊かな山々と三方を海に囲まれた函館市にも、ようやく遅い北海道の春を告げる桜の時期も過ぎ、リラ冷えの初夏を感じさせる季節を迎えるこの頃です。7月に開催される第46回北海道博物館大会は、開催地函館市と相成り、1962年(昭和37)の第1回大会、1988年(昭和63)の第27回大会以来の開催で、実に20年ぶりの大会開催地となります。

現在の函館市は、平成の大合併により平成16年12月1日、旧戸井町、旧恵山町、旧南茅部町、旧榎法華村との合併が図られ、面積677.79平方キロメートル、人口298,084人を有する「国際観光都市」、「水産海洋都市」をめざす北海道、道南地方の新たな顔として新生函館市が誕生し、平成17年10月には北海道では旭川市に次ぐ2番目の中核市に指定されました。文字通り、漁業(港湾)と観光の街函館が示すように、函館山からの夜景と津軽海峡に浮かぶ漁り火は絶景です。また、道南地域に湧き出でる豊富な湯けむりとともに、市木のオンコ(イチイ)、市花のツツジ(ヤマツツジ)、市鳥のヤマガラ、市魚のイカに象徴される豊かな自然の恵みは、訪れる人々のリラクゼーションとホスピタリティを約束してくれます。また、このような恵まれた自然環境と相まって、地域全体が博物館であるかのように函館を中心とする函館圏、渡島、檜山地域は、特別史跡五稜郭跡をはじめとして北海道の歴史、文化の発祥地を物語る見所満載の史跡、名勝の宝庫でもあります。

周知のとおり、函館市は、幕末から明治期にかけて長崎、横浜と同様、日本でいち早く海外に門戸を開き、西欧文化をとり入れた港町として、異国情緒あふれる街並みや伝統的建造物、史跡等を今に伝えています。函館の歴史、文化を象徴する幕末、明治期の函館ハイカラを受け継ぎ、大正、昭和期の函館モダンを彷彿とさせる街並みは、1907年(明治40)、1934年(昭和9)に代表される大火を幾度もくぐり抜け今にその面影を留めています。函館山の裾野に広がる西部地区、そこはまさにタイムスリップしたHAKODADIです。

函館ベイエリアからぶらり足を運ぶと、函館市臨海研究所(旧函館西警察署庁舎:大正15年)、市電の走る明治期のメインストリート末広町には函

館市地域交流まちづくりセンター(旧丸井今井呉服店函館支店:大正12年)、函館市文学館(旧第一銀行函館支店:大正10年)、市立函館博物館郷土資料館(旧金森洋物店:明治13年)、北方民族資料館(旧日本銀行函館支店:大正15年)、函館山を正面に眺めながらかつて行政の中心点であった基坂を登って行くと開港資料館(旧イギリス領事館:明治12年)、函館市写真歴史館(旧北海道庁函館支庁庁舎:明治12年)、登りつめた重要文化財旧函館区公会堂(明治13年)ではバルコニーから函館港を一望、眼下に広がる港と街並みを望みながら港ヶ丘通りを抜けると遺愛幼稚園(大正2年)、そして異宗教が交差する函館ハリストス正教会復活聖堂(大正5年)、大谷派本願寺別院(大正4年)等々にたどり着きます。このような伝統に培われた建造物の保存と再生によって形成された街並みは、どれも市民とともに歩んできた「時代の玉手箱」といえます。とりわけ、日本固有の伝統文化に西欧文化を上手に融合させた函館気質は、日本博物館史の黎明期においては、1879年(明治12)、わが国における地方博物館の先駆け「開拓使函館支庁仮博物館」の誕生を可能にしました。2006年(平成18)に登録記念物第1号に文化財登録された「函館公園」内には、その名残りとして、120余年の年月を経た今でも白亜のアメリカンスタイル建築物「仮博物館1号」、「仮博物館2号」が老練の風格を漂わせ佇んでいます。

このたびの大会テーマ「博物館の底力」にも似てエクスカッションをはじめ、とっておきの函館散歩によりこれまで地域の魅力を創出してきた「函館の底力」も体感していただければ幸いです。また、大会期間中には、市立函館博物館本館において、北海道初の「中空土偶」国宝指定記念として特別企画展「蘇る北の縄文ロードー発掘された縄文の世界ー」が開催されております。国宝「中空土偶」との遭遇にご期待ください。

今回の大会テーマ「博物館の底力ー地域の魅力を引き出し、活かす博物館ー」にふさわしい大会開催地として、参加者みんなが元気の出る、そしてお帰りの際には元気を持ち帰って頂けるよう大会を盛り上げていきたいと考えております。最も快適で過ごしやすい季節を迎える7月の函館は、多くの観光客とイカ漁で賑わいます。大会に花を添えるべく来て好し、観て好し、食べて好しの函館三味もお楽しみください。

(市立函館博物館 長谷部一弘)

道南ブロック  
News

## 道南今年の博物館活動について

道南ブロック博物館施設等連絡協議会に所属している各施設では、今年も特別展や講演会・ミュージアム・コンサートそして体験学習会などさまざまな博物館活動が行われます。

おもなところをあげると、すでに終えましたが今金町ピリカ旧石器文化館の「琥珀の勾玉作り」が古代のロマンを呼ぶと参加者の人気を博していました。知内町郷土資料館でも『ミュージアム・パル』が「兵隊山登山-歴史追体験-」で『知内学のすすめ』は「教えと学びの世界にたずさわって-我以外皆我師-」でそれぞれの第1回目の講座が始まりました。

また、町制施行50周年を迎える七飯町の歴史館では、「ムカシノドウグ展」を皮切りに様々な催し物が予定されています。

江差町で郷土資料館が新たに開館しました。

平成18年12月で江差町生涯学習センター内にあった郷土資料室が閉室になっていたのですが、4月28日より道指定有形文化財「旧檜山爾志郡役

所庁舎」が「江差町郷土資料館」として開館しております。

五稜郭公園内の箱館奉行所復元に伴い11月末で閉館する市立函館博物館五稜郭分館の所蔵品から美術資料の展示を「五稜郭讃歌」と銘打って道立函館美術館の常設展会場で開催しています。

また、市立函館博物館本館では、道内初の国宝となった「中空土偶」を記念した特別企画展「北の縄文ロード」が7月1日～8月19日まで開催します。道南はもとより道央や東北地方の考古学資料を集めて展示します。

なお、例年7月に開催する道南ブロック博物館施設等連絡協議会の総会と研修会は、北海道博物館大会が函館行われるため9月になりました。

今年度の研修会のテーマは、仮称ですが「デジタル・ミュージアム」です。これはデジタル博物館という意味ではなく、博物館資料のデジタル化を行うために必要な概念や技術的なことを学ぶとともに活用の方法やそれらに付随する問題点も含めて学ぼうと予定しています。開催場所は函館中央図書館です。

このほかにも道南の各施設では、「地域の学習施設」としていろいろな博物館活動を行う予定です。

(知内町郷土資料館 学芸員 高橋豊彦)

道北3管内  
News旭川市博物館  
常設展示室のリニューアル

旭川市博物館では、常設展示室のリニューアルについて検討しておりましたが、平成19年第1回定例市議会でリニューアルに関わる事業費1億円が議決されましたので、現時点でのリニューアル計画の一部をご紹介します。

スケジュールについては、来年度(平成20年)4月から10月まで展示工事を行い、11月1日リニューアルオープンし、同時に特別展示室において、「アイヌ工芸品海外展」を開催する予定です。

リニューアル計画の概要については、現在の展示の基本理念である「北国の自然と人間のかかわりを総合的・立体的に展示すること」を継承しつつ、展示室の上層階については、アイヌ文化をテーマとした展示の方向で、主に次の4点を中心に考えております。

一点目は、現在設置してある竪穴住居とチセの復元住居の内部に立体の情景、すなわちその時代

の臨場感あふれる家族の姿を再現すること。

二点目は、本館が所蔵する2千点を超える日本有数の北方民族資料を大量に展示し、そのスケール感の中で北方民族文化を体感し、理解してもらうコーナーを設置すること。

三点目は、立体情景再現により、交易民、生産民としてのアイヌ像を提示していくこと。

四点目は、音楽や工芸などをおしてアイヌ文化が現代に脈々と受け継がれ、また、日々創造されていることを理解してもらうため現代のアイヌ文化を紹介するコーナーを設けること。

以上が現時点で考えている内容です(今後一部変更もある)が、旭川市博物館の個性をよりはっきりと打ち出すことによって、学校教育・生涯学習での利用が活発になり、地域の知的財産として誇れる博物館を創っていきたくと考えています。

是非、平成20年11月1日のリニューアルオープンの日には、御来館をお待ちしております。

(旭川市博物館 館長 加茂千秋)

道東3管内  
News

## 平成18年度 根室半島植物分布調査を終えて

根室市歴史と自然の資料館では平成18年度に、学識経験者や植物愛好家からなる「ねむろ花しのぶ会」に植生調査を委託し、平成19年3月に調査報告書を出版した。根室市は国の天然記念物である「サカイツツジ（落石岬）自生地」を所管している。また、根室でしか見られないキヨシソウや根室の地名が種名に由来するトモシリソウなど植物の宝庫である。今回の植生調査は19年ぶりに実施され、蘚苔・地衣類は7科15種（新発見5種）、維管束植物97科609種（新発見61種）が確認された。新発見種の中には絶滅危惧種が12種含まれている。調査では過去の調査であきらかにされたキヨシソウの群落が縮小したことや、牧草地の造成や改良で希少種が分布する高層湿原が失われている現状を確認した。

根室市内の台地上に存在する高層湿原は、泥炭層の年代測定から12,000年前に形成されたもので、

道内の台地上に立地する湿原のなかでも古いものであるため、保全の必要性が指摘された。

この調査で収集された植物標本は約600点にのぼり、展示や調査等で活用される。また、調査会は今後も調査を継続し、根室の植生の豊かさや希少性について普及していく予定である。調査自体は単年度事業であったが、今後の自然保護意識の普及につなげることができたと思う。

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人)



キヨシソウ調査風景  
(友知島) 根室



アッケシソウ調査  
風景(温根沼) 根室

網走管内  
News

## 特別展示「もっと速く走る」 博物館の日常化の模索

5月は運動会の時期です。そこで5月1日から6月10日まで特別展示「もっとはやく走る」を開催しました。どのようにすれば速く走れるのかを、走りの科学と過去の生活様式を結び付けて紹介しました。

はじめは最新の走りの理論。町内の体育教諭から情報を集めパネルとビデオで紹介、もちろん展示と関連する点を強調しました。続いて先史の狩猟道具や図表を用いて「走りの原点」を紹介、走る必然性を歴史の視点で解説しました。次に「座する生活」と題し、ちゃぶ台、文机、鏡台等を展示。姿勢よく正座やあぐらをするためには足の関節、背筋の柔軟性が必要で、そのことが「速く走る」につながるとしました。次は「足裏を鍛える」コーナー。速く走るために必要な足指の力の向上と土踏まずの形成に、下駄や草履など鼻緒のついた履物が有効であることを紹介。また「はだし」の効果を感じさせるために砂利を敷き詰めた場所を

つくりました。連休中に親子連れが多く訪れ、体験コーナーでは順番を待つ姿もみられました。最近、当館は「博物館の日常化」を考えています。そこで運動会時期に「速く走る」をテーマとし、現代的課題である子どもの運動能力の向上と関連した展示を実施したのです。存亡の機にある地域博物館は日常生活に役立つ情報の提示も必要であると考えます。利用者の裾野を広げ博物館の存在価値を多くの人に知ってもらうことが重要と考えるからです。今後もこのような展示に挑戦し「博物館の日常化」を模索したいと思います。

(上湧別町ふるさと館JRY 学芸員 中島一之)



はだして歩く体験コーナー

石狩・後志  
空知地区  
News

## 田園空間博物館で 地域の歴史を伝える

月形町は、明治14年に樺戸集治監（現在で言う刑務所）が建設されたことから拓かれたまちです。

自然環境は、豊かな森と水をたたえる樺戸連山や肥沃な土を運ぶ大河の石狩川があり、歴史的には、これを自然要塞として樺戸集治監が設置され、やがて農業を主体としてまちを形成してきました。昨年から、月形町と浦臼町とで「田園空間博物館 樺戸地区」事業を進めています。これは、地域資源の保存活用や都市と農村の交流を目的として、5年前から道営事業として歴史的な構築物等を修復し整備してきました。

地域の歴史を伝えるために「まち全体を博物館にしてしまう」構想は、事業に参加した地域委員には少し戸惑いがあったようですが、歴史的な地域資源をうまく活用し後世に伝えていく活動を少しずつではありますが推進しています。

コア施設として、月形樺戸博物館があります。樺戸集治監をメインテーマとして、貴重な実物資

料を通して当時の様子を伝えています。数年前からは、解説員1名を配置して来館者の案内や質問等に対応しています。明治14年に樺戸集治監は農事監獄として始まり、囚人による農地開墾や道路開さく、屯田兵屋の建設などの外役作業が多くなり、その中でも北海道内陸部の道路開削は、過酷な労働のもとに完成しました。このことは、あまり知られていないようで、博物館を訪れる人たちに話をすると驚いています。皆さんが驚くように、北海道の開拓にとって大きな功績であり、評価すべきことであると思います。

多くの施設で、来館者リピーターの減少と言った状況が問題になっていると思います。当館も同じです。魅力あるものにしていくためにも、地域住民と一緒に地域資源をうまく活用していきたいと考えています。



(月形樺戸博物館  
野本和宏)

月形樺戸博物館での解説風景

日胆地区  
News

## 今号では日胆の ニューフェイスを紹介します。

室蘭市民俗資料館学芸員 谷中 聖治

ここ数年室蘭は、日露戦争から100年、空襲や艦砲射撃から60年、室蘭最大の造酒屋だった「香蘭」創業100年、室蘭の理容組合100年、日本製鋼所創業100年、輪西屯田兵村120年など、明治から昭和にかけて室蘭が港町として発展していく中で、様々な節目の年を迎えています。それらの事柄を多くの方からご教示頂き、企画展等で情報発信を進めています。また展示会の中から発展した「戦跡巡り」などは大変好評で、今後も続けていく計画です。

京都で学生生活を送ったためか、特に「もの」をつくる道具類を収集し手入れをして、展示等に加えています。館を訪れた方々が「資料の手入れが良くされている」とか「大切に保管されていますね」と、資料の扱いを感じてくれると、とても嬉しく思います。資料整理やそれに伴う調査など

は、外部から見えにくいことですが、これからも日々「つなぎ」を着て作業を行っていますので、ぜひお立ち寄りください。

日高山脈館学芸員 東 豊土

和歌山で生まれ、静岡で海洋学と地質学、岩石学を学び、北海道でさらに研究を進めておりましたが、前任の小野昌子さんの退職に伴い、山脈館に勤めることとなりました。

8年前に開館した日高山脈館は、日高山脈の自然と地質・岩石が中心です。自然はまだしも、地質や岩石というと、文字通りお堅いイメージでとっつきにくいのですが、日高山脈は昔は海だったのに、どうやって今の姿になったのか、そして今の姿になった日高山脈の雄大な自然、それを体感できる博物館です。

山と海というと正反対のようですが、実は日高山脈付近で産する岩石と同種の岩石が、自分の研究している海溝付近ではほぼ全種類採取されています。

このように、日高山脈と海とは切っても切れないわけですから、海で培った経験を山でも生かし、地元に着し魅力ある当館をさらに発展させていきたいと思っています。

## 新館紹介 地図と鉱石の 山の手博物館

山の手博物館は平成16年4月27日、地図と鉱石の展示、資料収集を目的として、オープンした私設博物館です。

当博物館は札幌市西区山の手にあり、周囲にはパンの博物館、チョコレートファクトリー、山の手ギャラリーと私設の博物館等が多数あり、発寒川河畔に隣接した自然にめぐまれた環境にあります。

施設の規模は、200㎡と小さく、展示・収納スペースにも限りがあります。また私設であることから、資金的な限界もありますが専門への特化と他の博物館との連携で、特別展の企画や他の博物館の見学等のイベント、情報発信を通じて普及博物館としての活動を中心に行っております。

当博物館は、北海道大学総合博物館、産業技術総合研究所(旧地質調査所)、地質標本館(つくば市)、石油天然ガス・金属鉱物資源機構(旧金属事業団)、国土地理院、日本地図センター、宇宙航空研究開発機構、海洋科学技術センター、その他多数の民間団体の協力で設立した、北海道の資源、環境、地質、地図の博物館です。

### 〈1階鉱石コーナー〉

1階は、主に鉱物・鉱石の展示を行っております。展示は、国内外の色や形が特徴的な鉱物や鉱石を、身近に見ることが出来るよう明るい照明設備を設置しています。センターテーブル上の展示物は、虫メガネ・ライトを利用し、自由に触れたり見ることが出来ます。

展示物は主に北海道に産出した金・銀・銅・鉛・亜鉛といった金属鉱山の鉱石や、各種岩石です。他に、世界のめずらしい鉱物や、宝石の原石を見れるのも特徴です。

### 〈地下1階地図コーナー〉

地図コーナーは研修室をかねています。ここには、200近い鉱山の地質図・坑道図・鉱山関係資料をはじめ、古地図・古い測量図面等を収納しています。その他、地質、鉱物、岩石関連の図書、学会誌等も閲覧できます。

床面には北海道の立体視地図、壁面には地図パネルを展示しています。又、55インチのテレビ、音響設備が設置されており、講演会、講習会を行

うことができます。

### 〈機器展示コーナー〉

古い測量機器、顕微鏡等

### 〈販売コーナー〉

- ・各種地質図(5万分の1地質図幅等・地質調査総合センター販売代理店)
- ・各種航空写真・衛星画像・貴石・鉱物・岩石

### 〈イベント〉

- 年3～4回の石を巡る旅(旧鉱山や岩石)
  - 博物館の夕べ(講演会)年1回  
地球科学周辺の話題を、博物館をささえてくれている地域の人々が行っている。
  - リモートセンシング技術を子どもたちに(鳥になって地球を見てみよう)年1回
- ※他に、自然体験学習財団・ジオフェスティバル・理科教育センターへの参加。

### 〈施設概要〉

所在地 札幌市西区山の手7条8丁目6-1

延床面積 200㎡

構造 鉄筋コンクリート、地下1階・地上4階

駐車場 乗用車5台、大型バス不可

ホームページ <http://www.yamanote-museum.com/>

(山の手博物館 櫻間 静恵)



山の手博物館の外観



1階 鉱石コーナー

## 館園の主な展覧会と普及事業

(2007年8月～10月)

### 石狩

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

6/9～8/5 展覧会「モディリアーニと妻ジャンヌの物語」

8/11～9/30 展覧会「滋澤龍彦 幻想美術館」

10/6～11/25 展覧会「大本靖 版画展」

札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)

8/4・18・25 「サケたちのエサやり体験」

9/23 「さっぽろサケフェスタ2007」

9/29・10/13 「サケの人工授精体験」

9/30 「サケの産卵解剖実習」

10/6・20 「サケ・タッチプール」

10/7・14・21 「サーモンウォッチング」

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

7/21～9/6 特別展「ダリ展 創造する多面体」

9/14～10/21 特別展「大倉集古館の名宝「日本美術ノ光華」

北海道開拓記念館 (011-898-0456)

7/20～10/8 特別展「鯨(くじら)」

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

7～8月 夏休み特別展「昆虫学協会」

7/28～8/25までの毎週土曜日、8/14・15 「夜の動物園」

8月中旬～9月末 「円山動物園ケータイフォトコンテスト」

8/31・9/7・15 「ZOO LOHASナイト」

9月下旬 「動物慰霊祭」「裏側探検隊」

10/6～21 「円山動物園芸術祭2007」

北海道大学総合博物館 (011-706-2658)

7/1～9/17 「昆虫記」刊行100年記念日仏共同企画展「フェアブルに  
まなぶ」

北海道立三岸好太郎美術館 (011-644-8901)

6/22～9/2 展覧会「終わりなき変転の果てにー三岸好太郎の10年」

9/8～10/21 開館30周年記念展「ジオルジュ・ルオーとー三岸好太郎」

10/27～1/20 展覧会「ブルー・グリーン・グレー 北方の色彩」

7/21～8/19 「たんけん美術館」

江別市郷土資料館 (011-385-6466)

7月～11月 展覧会「新収藏品展」

千歳サケのふるさと館 (0123-42-3001)

6/23～9/2 企画展「水生昆虫展」

9/22・23 普及事業「サーモンスクール」

### 渡島

七飯町歴史館 (0138-66-2181)

9/8～10/17 特別展「幕末の七飯」

8/1 町民講座「夜の博物館 先史学のススメ3」

8/5 昆虫採集「クワガタGET」

8/11 「わたしの昆虫標本づくり」

8/18・19 歴史館ジュニア探検クラブ「大沼をきわめる」

9/5 町民講座「夜の博物館 先史学のススメ4」

9/22 歴史館ジュニア探検クラブ「収穫・ジャムづくり」

9/23 親子体験教室「月見だんごづくり」

10/6 親子体験「せかいにひとつだけのリンゴジャムづくり」

10/14 特別展示記念講演会

10/21 親子体験教室「森で遊ぼう」

10/27・28 歴史館ジュニア探検クラブ「昔のおやつ」

北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

8/4～9/21 特別展「絵本作家ワンダーランド」

9/30～10/14 特別展「奥の若手道」

10/21～12/9 特別展「現代書の展開」

市立函館博物館 (0138-23-5480)

7/1～8/19 特別企画展「蘇る北の縄文ロードー発掘された縄文の  
世界ー」

9/2～10/21 特別企画展「アイヌからのメッセージ2007ー現在から  
未来へー」

10/2～11/30 特別展「さらば五稜郭の星 第2部さよならこれが五  
稜郭分館だ」

### 絵山

ピリカ旧石器文化館 (0137-83-2477)

8/18・9/15・10/20 「石器づくりセミナー」

### 後志

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

7/12～10/21 特別展「夏から秋の展覧会 西村計雄の名山紀行」

7/12～8/19 特別展「しりべしミュージアムロード共同展」

8/21～10/21 特別展「山岸正巳展」

10/25～3/9 特別展「開館8周年記念展バリの空の下」

北一ウエネツイア美術館 (0134-33-1717)

5/26～8/24 特別展「巨匠アルフレード・バルニーニ追悼展」

企画展「ヴェットリオ・コンスタンチーニ展」

企画展「ヴェネツィア・飾り脚グラス展」

8/25～11/16 特別展「ゴッホ・ガラスモザイク絵画展」

企画展「レースガラスのテーブルウエア展」

企画展「ルチオ・ブハッコ展」

余市宇宙記念館 (0135-21-2200)

4/21～8/26 特別展「宇宙服」

余市水産博物館 (0135-22-6187)

8/21～10/14 特別展「海山川の記憶ー地図と写真に刻まれたふるさ  
とー」

小樽市水族館公社 (0134-33-1400)

7/21～8/26 「夏の特別展」

9/15～11/25 「秋の特別展」

7/29・8/5 「親子で参加魚拓教室」

9/16・17 「水族館おもしろ講座 魚類編」

9/23～10/8 「全道幼児児童動物画コンクール入選作品展」

10/7・8 「水族館おもしろ講座 海獣編」

### 空知

砂川市郷土資料館 (0125-52-2339)

9/28～11/18 特別展「台所今昔展」

滝川市美術自然史館 (0125-23-0502)

9/29～10/21 展覧会「一木万寿三とりんごアート展」

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

7/14～10/14 特別展「化石を見つけよう」

8/4・5 「自然観察講座 アンモナイトの観察」

### 上川

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

7/21～8/26 特別展「ヒグマ」

10/13～10/31 企画展「アイヌ民族資料展」

富良野市博物館 (0167-42-2407)

9月下旬～10月中旬 企画展「山岳写真展」

10月中旬 「富良野自然フォーラム 森林セラピー」

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

6/16～8/23 展覧会「三沢厚彦 ANIMALS+」

9/1～10/14 展覧会「モーリス・ユトリロ」

10/20～12/9 展覧会「丸木俊・スマの世界」

4/28～8/23 展覧会「ギフト&コレクション」

9/1~1/9 展覧会「戦時を生きて」

旭川市科学館 (0166-31-3186)

7/14~9/17 特別展「ピラミッドサイエンス」

10/4~8 「上川地方青少年発明くふう作品展・科学の夢の図画コンクール合同展示会」

8/4・5 野外観察「フィールド・サイエンス」

8/25・10/21 「自然観察会」

10/21 「秋の科学館まつり」

9/8・9 「サイエンスキャンプ」

10/13・14 「親子ミニマイコンカー教室」

旭川市博物館 (0166-69-2004)

6/30~9/2 企画展「嵐山の魅力」

8/3 子供博物館「アイヌ文化を学ぼう」

8/9・10 夏休みギャラリー子供博物館

10/13 子供博物館「ムックリを作って奏でよう」

8/12 講座「軍都に生きる③」

10/7~12/9 企画展「カムイのもとに暮らして～アイヌの人びとの四季」

10/12 体験学習「アイヌ文様陶器をつくる」

10/14 体験学習「探鳥会」

10/28 体験学習「ガリ版印刷で楽しもう」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)

8/4~11/4 企画展「ロダン発→現代行 彫刻を形づくった巨匠たち」

7~9月 「彫刻散歩」

10/6 「中原悌二郎賞贈呈式・シンポジウム」

中川町エコミュージアムセンター (01656-8-5133)

8/11~12 ふるさと体験事業「地層観察教室」

10月6~9 「森の学校2007秋」

#### 網走

博物館網走監獄 (0152-45-2411)

7/1~9/30 特別展「明治の生活展」

8/12 「模擬裁判」

北海道立オホーツク流氷科学センター (0158-23-5400)

8/4~ 魚拓道45周年記念「松永正津の世界展」

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

7/14~10/8 特別展「世界で一番ダイナミックな海べりング海に生きる人々」

10/19~12/16 ロビー展「サハ共和国の自然と文化」

上湧別町ふるさと館 J R Y (01586-2-3000)

9月 「収蔵資料紹介展」

10月下旬 博物館宿泊体験「過去へタイムトリップ」

美幌博物館 (01527-2-2160)

6/17~8/12 企画展「寄贈資料展」

夏休み中 「こども自然教室」「こども工作教室」

9/2~10/26 特別展「北海道を探検した男 松浦武四郎～未知への憧れ・挑戦～」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

7/21~8/19 企画展「版画をとおした北の風土」

9/29~10/28 企画展「アートとの対話～オホーツクからの発信」

8/25・26 「環オホーツク海文化のつどい」

6~11月 「こども考古学教室」

8月 「夏休み親子陶芸講習会」

10月 「織りもの講座」

#### 胆振

室蘭市青少年科学館 (0143-22-1058)

9/9 「青少年のための科学の祭典 室蘭大会」

10/13 化学実験工作教室「JAXAキッズコース」

10/14 化学実験工作教室「JAXAファンダメンタルコース」

苫小牧市博物館 (0144-35-2550)

7/21~9/2 特別展「マッチ・ワンダーランド～歴史・デザイン・喫茶店文化～」

9/2~9/22 「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」  
(苫小牧市立中央図書館)

10/13~11/4 「トヨタ自動車北海道創業15周年記念美術展」

8月 見学会「芸術探訪」

9月 観察会「覚生川探検隊10」

10月 観察会「森の観察会」

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

7/14~8/15 企画展「来蘭80年 青い目の人形が来たころ」

8/9・10 夏休み学習会「裏庭大工さん」

登別市郷土資料館 (0143-88-1339)

6/1~9月中旬 展覧会「大盛況の工業 観別鉱山展」

#### 日高

様似郷土館 (0146-36-3335)

10月 「様似山道歩こう会」

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

9/26~11/25 特別展「縄文土器のうつりかわり」

10月 「沙流川歴史館講座」

#### 十勝

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

6/15~8/1 特別展「美しさへの挑戦」

8/10~10/17 特別展「北の風土と四季の彩り」

10/27~11/14 特別展「浅野修展 虚と実」

おびひろ動物園 (0155-24-2437)

7/30~8/10 「一日飼育体験 (中・高生)」

8/25 「夜の動物園裏側探検」

9/2 「おやこ動物ふれあい教室」

9/8~17日 「一日飼育体験 (大人)」

9/15・16 「生涯学習フェスティバル」

9/22 「一日飼育係 (小学3・4年)」

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

8/4~16 展覧会「窪島コレクションによる芸術と信仰」

8/18~26 展覧会「人を描くⅢ」

10/2~10 展覧会「馬の絵作品展」

#### 釧路

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

6/9~8/26 展覧会「アルフォンス・ミュシャ展」

8/31~9/6 展覧会「宮脇檀の住宅展」

9/15~11/5 展覧会「生誕100年 斎藤清展」

標茶町郷土館 (01548-7-2332)

8月 郷土館講座「夏休み 植物・昆虫ウォッチング」

夏期 「新登録資料移動展」

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

8/4~12 「工作教室・実見教室」

9/15~9/30 展覧会「海の作品展」

#### 根室

根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)

8/1 展覧会「市制50周年 根室市歴史と自然の資料館企画展」

8/5 「土器造り体験学習」

8/14 「コウモリ観察会」

9/2 「勾玉作り体験学習」

9/9 「自然観察会」

10/2 「星座観察会」

10/21 「市街地史跡散歩」